

第2回事業評価監視委員会 質問事項について

- 五条大宮拡幅 交通容量計算例示
- 金山バイパス 環境(騒音)について

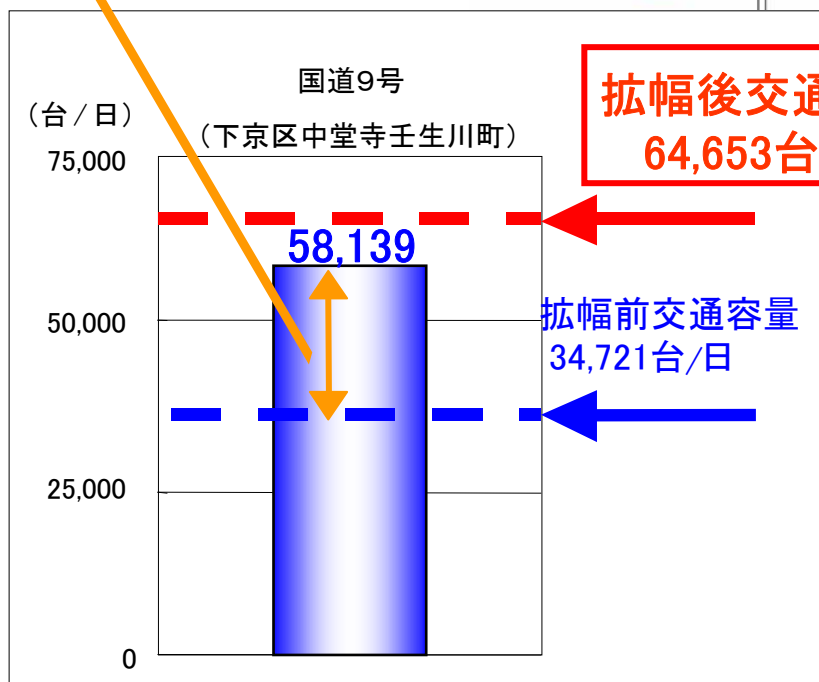
近畿地方整備局道路部

第2回事業評価委員会質問事項(五条大宮拡幅)

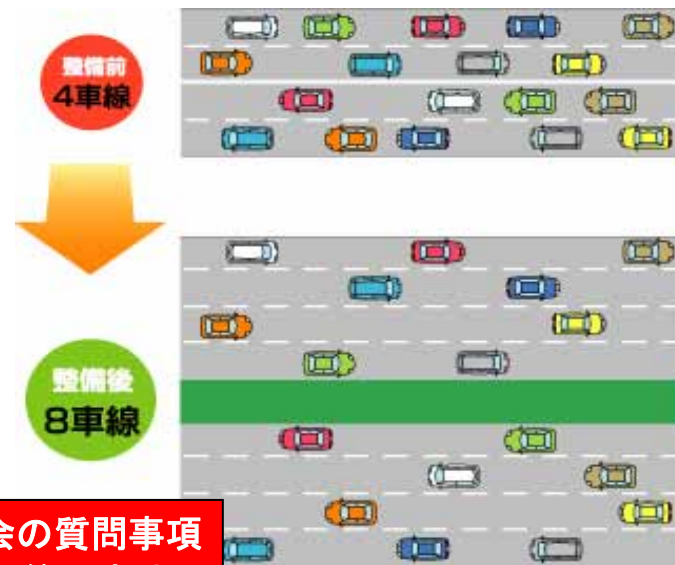
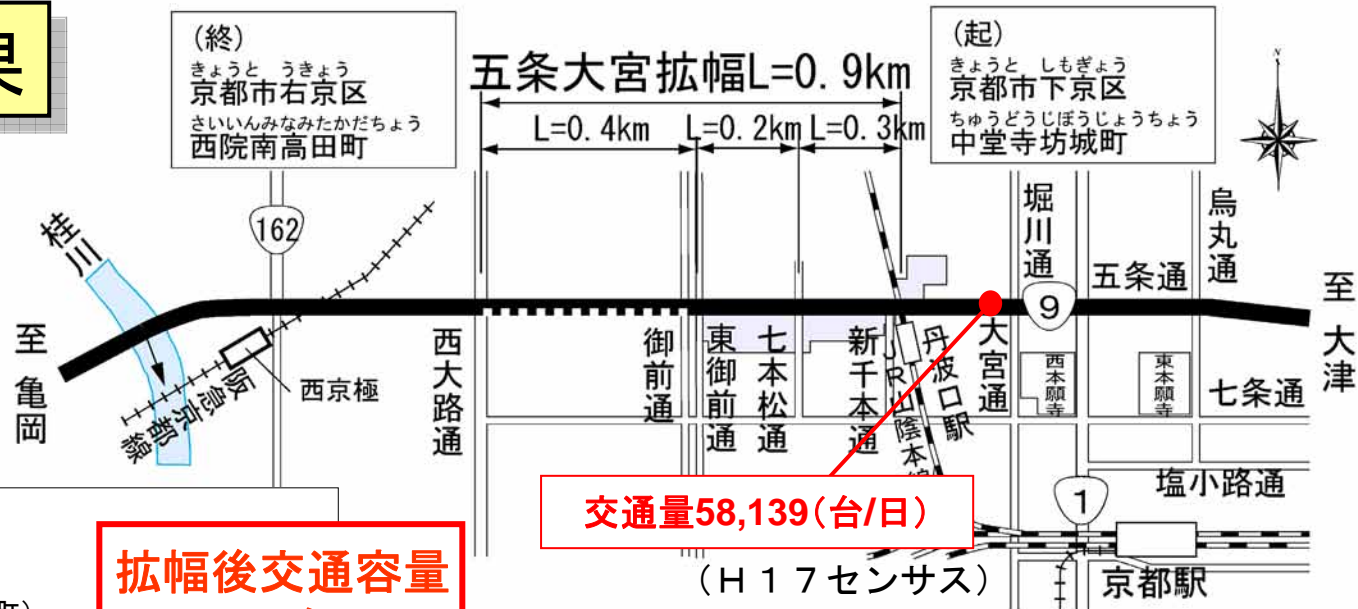
事業の整備効果

【交通容量の増大】

著しい交通容量不足



(出典) 道路交通センサス
※ グラフ中の数値は、現況交通量 (台/日) を示す



第2回委員会の質問事項
(交通容量の算出方法)

交通容量の算定について

必要車線数の設定

〔「道路構造令」(政令)〕

◆必要車線数 = 計画交通量 ÷ 設計基準交通量

$62,100 \div 7,200 \div 8$ 車線

交通容量の算定

〔「道路の交通容量」(編集・発行: 社団法人日本道路協会)〕

可能交通容量 の設定

現実の道路の道路条件・交通条件下で通過できる乗用車の最大数

道路条件・交通条件を考慮し、基本交通容量を補正

◆基本交通容量 × 補正率 × 車線数

【補正率】 ①車線幅員 ②側方余裕 ③沿道条件 ④二輪車

※基本交通容量とは、道路条件及び交通条件が基本的条件を満たしている場合の交通容量

$2,200 \times (0.94 \times 0.95 \times 0.75 \times 0.98) \times 8$
 $= 11,599$ 台/h

STEP 1

設計交通容量 の設定

道路を計画・設計する場合に、年間を通じて提供すべきサービスの質の程度に応じて規定される交通量

サービスの質に程度に応じて可能交通容量を補正

◆可能交通容量 × 補正率

【補正率】 ①計画水準に応じた低減率 ②交差点信号

$11,599 \times (0.90 \times 0.53)$
 $= 5,563$ 台/h

STEP 2

12時間交通容量 の算定

12時間に道路が自動車をさばく能力

交通量の年間を通じた変動や方向別の偏りを考慮し、設計交通容量を12時間値に拡大

◆設計交通容量 ÷ (時間あたり交通量に対する12時間あたり交通量の割合 × 方向別の偏り度合)

$5,563 \div (0.108 \times 52.6/50)$
 $= 48,951$ 台/12h

STEP 3

日交通容量 の算定

24時間に道路が自動車をさばく能力

12時間交通容量を24時間値に拡大

◆12時間交通容量 × 昼夜率 × 乗用車換算台数を実台数に換算する係数

$48,951 \times 1.44 \times 1/1.09$
 $= 64,653$ 台/日

STEP 4

金山バイパスの沿道環境について

①環境基準について

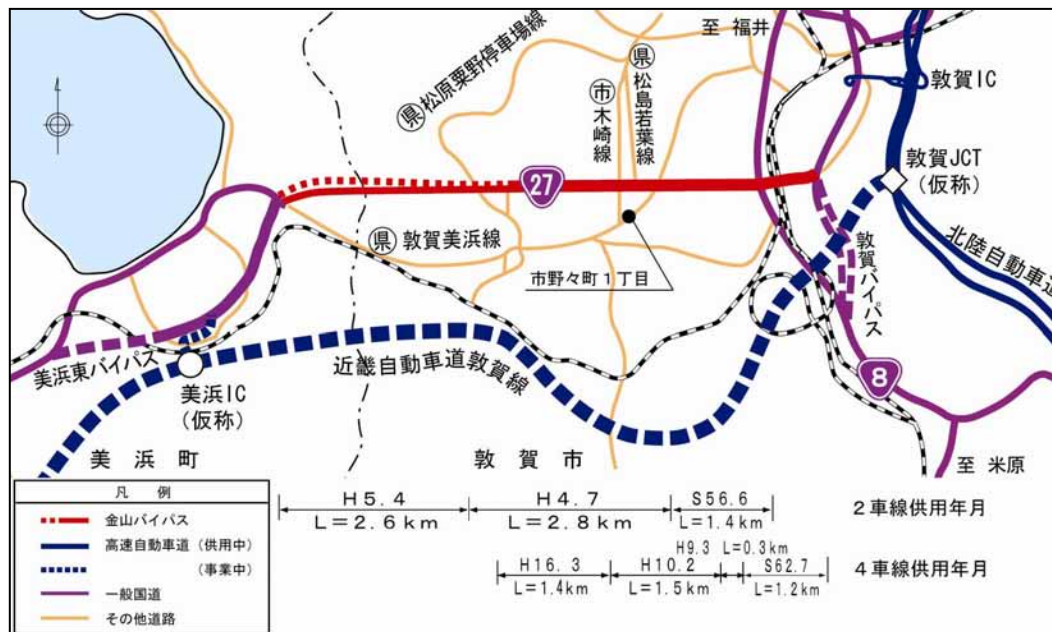
平成11年4月より環境基準が改正され、L50からLeqで評価。

・Leqで評価した場合の騒音について

【平成17年11月測定結果】

環境基準(夜間) 65dB \geq **測定値64dB**

環境基準(昼間) 70dB \geq **測定値70dB**



②騒音の状況について

金山バイパスの暫定供用により、現道(旧道国道27号)の騒音値は大幅に低下しました。

【夜間騒音値】

62dB(L50)【平成 3年】



49dB(L50)【平成17年】

(dB) 国道27号旧道((県)敦賀美浜線) 騒音値(夜間)

